

所属 1	所属名 名古屋	愛知小学校	オカダ ナツミ 名前 岡田 夏実
分科会番号	特	分科会名	「特別の教科 道徳」特別分科会

1 研究題目

主体的に自分の役割を果たそうとする子どもの育成
—キャリア教育の実践を通して—

2 研究のねらい

私は、主体的に自分の役割を果たそうとする子どもを育てたい。私が考える主体的に自分の役割を果たそうとする子どもとは、教材を通して学んだことを自分の役割の中で、どのように生かすことができるかを考える子どものことである。将来、49%の仕事がAIやロボットによって代替可能となると予測されている変化の激しい社会の中では、状況に応じてよりよく判断して、自分らしさを生かしながら自分の役割を果たしていくことができる力が求められる。また、学校という小さな社会の中で自分の役割を果たしていくことは、ナゴヤ学びのコンパスで重視されているキャリア教育にも深い関わりがあると考えられる。「小学校キャリア教育の手引き」を確認したところ、キャリア教育で育成すべき力（基礎的・汎用的能力）のうち、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」の二つの能力は、本テーマと特に深い関わりがあることが分かった。これらのことから、主体的に自分の役割を果たそうとする子どもを育てることは意義深いと考える。

小学校高学年におけるキャリア発達課題 《活動のねらい(身に付けさせたい力)》※一部抜粋	
人間関係形成・ 社会形成能力	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の思いや考えを、場に応じた態度で適切に伝えることができる。 ● 社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。
自己理解・ 自己管理能力	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の役割の必要性を理解し、責任をもって役割を果たそうとする。 ● 自分の気持ちをコントロールしながら、前向きに考えて挑戦できる。
出典：文部科学省「2022小学校キャリア教育の手引き」	

3 研究の方法

(1) 研究の対象 6年3組(27名)

(2) 子どもの実態

本学級の子どもは、委員会活動や学級の当番活動などの与えられた役割には一生懸命取り組む姿が見られる。しかし、自分の役割に「より工夫したい」と思いをもって取り組もうとする姿勢はあまり見られない。また、6年生としての意識を把握するためのアンケート調査では、みんなの手本となれるよう様々な役割を頑張りたいと思う一方で、リーダーの経験が少なく、最高学年として、役割を果たすことができるか不安を感じている子どももいることが分かった。このことから、主体的に自分の役割を果たそうとする子どもを育てることが重要であると考える。

質問①「6年生で頑張りたいことは何ですか。」

- ・学校みんなの手本となることを頑張りたい。(複数回答)
- ・年下の子が分からないことがあったら、教えてあげること。
- ・自分で考えて行動すること。・委員会活動を頑張りたい。

質問②「6年生になって、心配なことや不安に感じていることはありますか。」

- ・1年生に分かりやすく教えることができるか心配。
- ・1年生から5年生の役に立てるか心配。
- ・6年生の役割を果たせるか不安。

【6年生としての意識を把握するためのアンケート】の記述内容 ※一部抜粋

(3) 手だて

① 自己をみつめるための工夫

(事前・授業)

子どもが教材の登場人物と自分を重ね合わせて考えることができるように、授業の事前や導入で自分の日頃の役割を想起したり、教材に対する考えをもったりする活動を行う。教材に合わせて、タブレットを活用して事前アンケートや教材への疑問・感想カードに取り組むようにする。

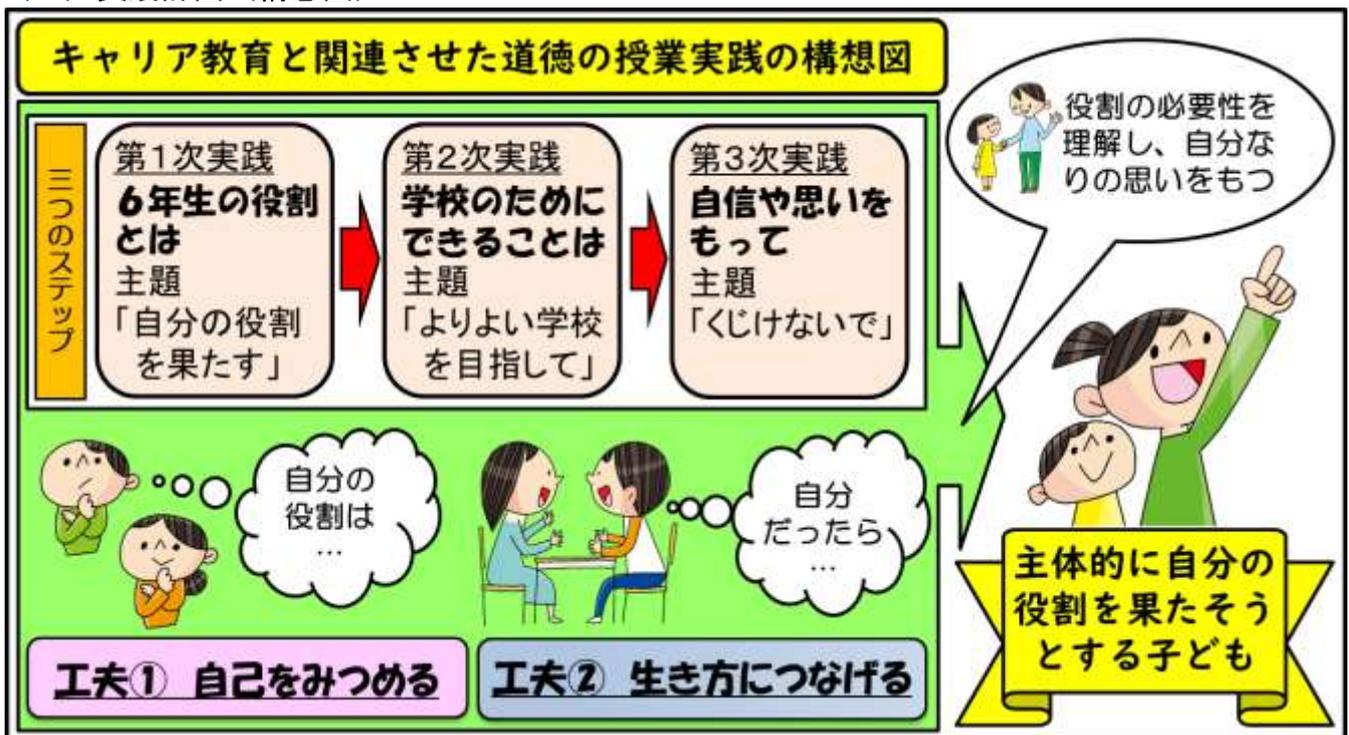
② 生き方につなげるための工夫

(事後)

授業の学びをさらに深めることができるように、子どもにとって身近な教材を準備し、ミニ道德を行う。ミニ道德とは、15分程度の短い時間で行う道德教育のことである。授業のねらいに関わりのある場面について、「自分だったら…」という視点で二つの立場から自分の考えに近いものを選び、グループで話し合う活動を行う。立場を選んだ理由を伝え合うことで、様々な視点から考え、自己の生き方に生かせる考えが見付けやすくなると考える。

上記の工夫を講じるとともに、二つの能力を身に付けていくことにつながる教材を選び、子どもの実態に応じて、三つのステップでキャリア教育と関連させた道德の授業実践を行っていく。

(4) 実践計画 (構想図)



4 研究内容 (第1次実践)

(1) 主題 自分の役割を果たす (C よりよい学校生活、集団生活の充実)

(2) ねらいと教材

【教材】 子ども会のキャンプ (出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」6年)
【ねらい】 班長としての明葉の行動のよさについて考えることを通して、集団をよりよくするために一人一人のことを考えて行動することの大切さに気付くことができるようにし、学校や集団のリーダーとしての役割を自覚し、責任を果たすための判断力や心情を高めることができるようにする。
【教材の概要】 子ども会のキャンプで、6年生の明葉は班長を担った。晩ご飯の準備で、3年生のむつみがよろけて、カレーが全部こぼれてしまう。明葉はみんなをなだめ、他の班からカレーをもらい、むつみの謝る言葉に口を添えた。班長の仕事を果たし、今年のキャンプは、明葉の心に残る思い出となった。

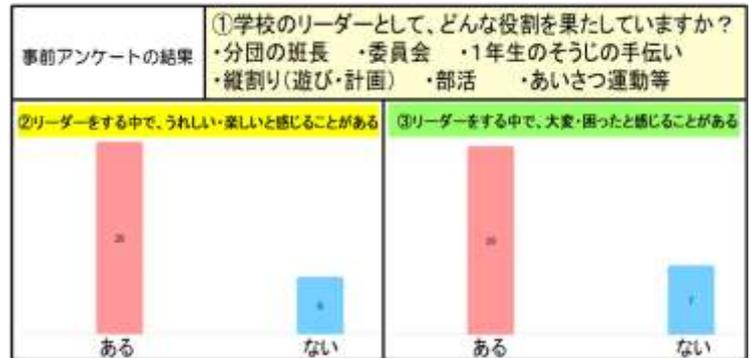
(3) 実践の様子

① 自己をみつめるための工夫

【事前】6月末に、学校のリーダーとしてどんな役割を果たしてきたかを子どもたちに尋ね、事前アンケートを行った。

【導入】始めに、事前アンケートの結果を提示した。次に、分団の班長や委員会活動、縦割り集会の司会などの役割に取り組む写真を見せ、リーダーをする中で、うれしい・楽しいと感じることを尋ねた。すると、「1年生に掃除の仕方を教えるとやってくれる」「縦割り集会のとき、みんなが楽しく遊んでくれる」と答えた。リーダーをする中で、大変・困ったと感じることを尋ねると「分団で一年生が話を聞いてくれない」「プレッシャーを感じる」と答え、友達の発言に共感する姿が見られた。

【展開】教材を読み、主人公の明葉がキャンプを楽しみにしながらも不安に感じていたことに共感できるようにし、話し合っていた。（話し合い活動の形態）



- T:「明葉の行動でいいなと思うのはどんなところですか」(ペアトーク→全体)
 C:「けがをしていないか確認したところ」 C:「すぐにむつみのところへ向かった」
 C:「むつみが謝るのについていったところ」
 T:「むつみさんは、明葉さんについてきてもらったらどのように思いますか」
 C:「安心する」 C:「冷静に考えて行動しているね」

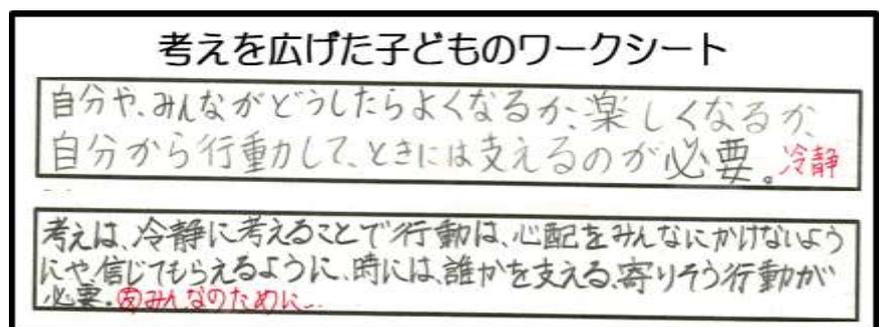
誰の立場を考えた行動か下の図のように三つの視点を与え、明葉の思いをワークシートのクローバーの葉の部分に記述する活動を行った。「むつみが」と「みんなが」の欄には、すぐに考えを記述する姿が見られたが、「自分が」の欄は、何を記述するか悩む子どもの姿が見られた。全体で話し合う場面では、次のような考えが出された。

- T:「明葉はどんな思いで行動したのでしょうか」(ペアトーク→アップデートタイム→全体)
 C:「むつみさんに、笑顔でいてほしい」
 C:「みんなにとって楽しいキャンプになってほしい」
 C:「自分がみんなを不安にさせたり、心配させたりしないようにしたい」
 C:「みんなが安全にいられるように」
 T:「明葉が思いをもって行動していなかったらどんなキャンプになっていたでしょう」
 C:「つまらないキャンプになっていた」
 C:「みんな面白くなかったと思う」
 T:「このクローバーの中心にあるのは、どんな思いだろう」
 C:「みんな仲よく」
 C:「6年生としての責任を果たしたい」



※ アップデートタイム：話したいと思う相手と自由に話し合ったり、取り入れたい友達のことをワークシートに付け加えたりする時間

三つの視点について考えを共有すると、明葉がリーダーとして様々な思いをもって行動したことでよりよいキャンプになったことを捉えることができた。その後、縦割り集会で5年生を支えた経験を振り返り、「学校のリーダーとして、どんな考えや行動が必要でしょう」と発問した。ワークシートに書いた考えを共有すると、「自



分が中心として活動しなくても優しく支えたり、アドバイスをしたりする」「冷静に考え、ときには誰かを支え、寄り添う」と周りや状況を見て支えるリーダーの役割が出された。これまで、みんなを引っ張っていくことや教えることがリーダーの役割と考えていた子どもの考えが広がった。

② 生き方につなげるための工夫

【事後（ミニ道德）】朝の時間に動画教材を見て、チームのキャプテン（リーダー）の役割について話し合った。

動画教材「最後のリレー」（出典：NHK for School『ココロ部！』）

（概要）主人公は、陸上部のキャプテン。これから、最後のリレーの大会に臨む。しかし、直前にリレーの選手である親友がけがをしていることを知ってしまう。キャプテンとして、監督に話すか、話さないか悩む。

動画を見た後、自分だったらどうするか立場を選び、選んだ理由を記述した。次に、生活班のグループで話し合った。進んで自分の考えを伝える姿や、違う立場を選んだ友達に質問して、「それも分かるよ」と考えに共感する姿が見られた。

数日後、子どもたちが自分らしさをより捉えられるように中学校ブロックのキャリアナビゲーターに協力いただき、「ジョハリの窓」を活用した自他のよさを捉える出前授業を行った。子どもたちは友達に自分のよさを伝えてもらい、新たなよさに気付くことができた。また、授業の振り返りには、「よいところを伝えてもらって、自信になった」という記述が複数見られた。

（4）成果と課題

事前アンケートや導入で自分の役割を想起することで、子どもたちは、教材の主人公のリーダーとしての役割に対する楽しい気持ちや不安な気持ちに共感して考えることができた。一方で、リーダーの経験が少ない子どもも多いため、教材を通してリーダーとしての役割を捉えた後に、自分の役割を想起する授業展開の方がより子どもの考えが深まったのではないかという意見を校内でいくつかいただいた。

誰もが理解しやすいストーリーの動画を教材としたことで、子どもたちは、自然と「自分だったら」と考えることができた。しかし、動画教材は子どもたちへのインパクトが強かったため、自分の生き方に結び付けて考えることができている記述が多く見られた。

5 研究内容（第3次実践）

（1）主題「くじけないで」（A 希望と勇気、努力と強い意志）

（2）ねらいと教材

【教材】自分を信じて-鈴木明子（出典：光村図書「きみがいちばんひかるとき」6年）

【ねらい】困難があってもスケートを続け、新たな技を成功させた鈴木明子さんの姿を通して、くじけそうになったときに大切な気持ちは何かを考え、希望や勇気を持ち、努力して物事をやり抜こうとする判断力と心情を高めることができるようにする。

【教材の概要】フィギュアスケート選手の鈴木明子さんは、10代のときに体調を崩し、普通の生活もままならなくなった。しかし、努力を重ね、オリンピックに8位入賞を果たした。次のオリンピック出場が大きな壁となったが、3回転の連続ジャンプを見事成功させ、2大会連続8位入賞を果たした。

（3）実践の様子

【事前】教材を事前に読み、明子さんがフィギュアスケートの大会で演技をする動画を見せた後、「自分と比べて、明子さんのすごいと思うところはどこですか」と問い掛け、考えを学習支援アプリに提出するようにした。

鈴木明子さんのすごいと思うところはどこですか？

- ・フィギュアスケートが大好きという大きな気持ち
- ・あきらめないで、努力をし続けているところ

私だったらあきらめてしまうと思います。

子どもが提出した明子さんのすごいと思うところ

【導入】事前に子どもが提出したカードの内容を提示し、全体で共有した。

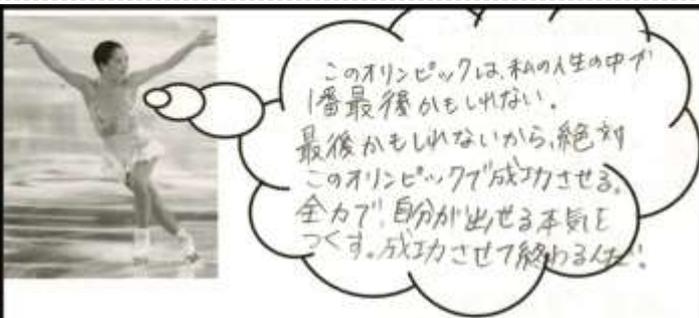
【展開】困難な状況を乗り越えてオリンピックに出場した明子さんの生き方を確認した後に、明子さんの複雑な気持ちを捉えていった。

T : 「コーチに三回転の連続ジャンプが必要だと言われたとき、明子さんは、どんなことを考えていたでしょう」(ペアトーク→全体)
 C : 「『やれるものなら、やってみたい』と挑戦したいと思っていた」
 C : 「『無理かもしれない』と不安だった」
 T : 「前向きな気持ちと後ろ向きな気持ちのどちらが大きかったと思いますか」
 (挙手) 前向きな気持ち⇒4人 後ろ向きな気持ち⇒11人 半分ずつ・その他⇒10人

T : 「明子さんがくじけそうになったときでも努力できたのは、どんな気持ちがあったからでしょう」
 (ペアトーク→アップデートタイム→全体)
 C : 「お母さんにももらった励ましの言葉を大切にしよう」
 C : 「ジャンプを成功させて達成感を味わいたい」
 C : 「やり切って悔いなく終わりたいという気持ち」
 T : 「だから、勇気をもって練習に取り組むことができたんだね」
 C : 「スケートが好きで『跳びたい』という気持ちもあった」
 C : 「オリンピックに絶対出たい」 C : 「自分が出せる本気を尽くすんだという強い気持ち」
 T : 「目標を達成したい思いが強かったんだね」



ペアやグループで話し合う様子
 明子さんの気持ちを記述したワークシート



メモ(友達)
 ・今までやっめたことがあるからこそこのオリンピックを成功させる。最後だからこそ、今までの努力を潰してがんばりたい。
 ・お母さんからもらった励ましの言葉があったから、自分の自信が湧いてくる。

全体では、希望や勇気、強い思いが明子さんの努力を支えていたことを捉えることができた。「もし、練習しても三回転のジャンプができなかったり、オリンピックに出られなかったりしたら、努力は無駄だったのか」と問い掛けると「無駄ではないと思う」「他の場面で生かしていくことができる」と答えた。

【終末】振り返りには、「私はまだくじけたことがないけれど、努力は人の気持ちや思いで変わると思った」といった今の自分を見つめて考えた記述や、右のようにあきらめない心の大切さを捉え、これからの生き方について考えを深めた記述が見られた。

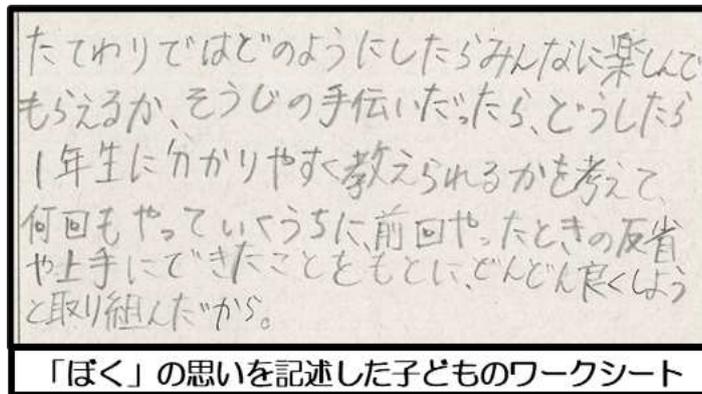
【事後(ミニ道徳)】4月の子どもたちの姿につながる教材を準備し、自信や思いをもつことの大切さについて考えた。今回は、より自分の経験と重ね合わせて考えることができるように、二つの立場から選ぶのではなく自由に考えることができるようにした。

私は、明子さんからあきらめなげという言葉を改めて学びました。人はみんなくじけそうなきが一度はある。大事なものはそこからどうするかで自分の自信に変わっていく。ということも学びました。この気持ち、学んだことをいっか活かしたいなと今日の授業で思いました。

生き方について考えを深めたワークシート

自作教材「一年後のぼく」(内容)①【4月のぼく】ぼくは、人前で話すことがあまり得意ではない。6年生として、縦割り集会のリーダーの役割をしっかりと果たすことができるか不安に思っている。また、1年生のそうじの手伝いでは、1年生に分かりやすく教えられるか、自信をもてないでいる。
 ②【1年後の3月のぼく】ぼくは、小学校をもうすぐ卒業する。4月は、6年生として役割を果たすことができるか悩んでいたが、今では、しっかりと役割を果たすことができたと思っている。

『ぼく』が『しっかりと役割を果たすことができた』と思うことができたのは、どんな思いをもって、役割に取り組んだからでしょう」と発問し、グループで話し合った。全体では、活動する中でリーダーとしての自覚が芽生えたことや、目標や勇気をもって努力（行動）をしたことが役割をしっかりと果たせたという達成感につながったことを全体で共有した。振り返りには、「自分に自信をもって周り助け合いながら生活していきたい。自分の役割をしっかりと果たしたい」といった、役割を果たすことに対して意欲を高めた記述が見られた。



「ぼく」の思いを記述した子どものワークシート

(4) 成果と課題

事前に、自分と比べて明子さんのすごいと思うところを問うことで、子どもたちは、自然と自分の生き方を見つめて考えることができた。また、導入で事前に考えた明子さんのすごいところを共有したことで、明子さんの気持ちを考えやすくなり、中心発問では、希望や勇気、強い思いが努力の支えになることを捉えることができたと感じた。

子どもの姿につながる教材を準備することで、自分と重ね合わせて考え、役割を果たしていくことについての意欲を高めることができたと感じた。

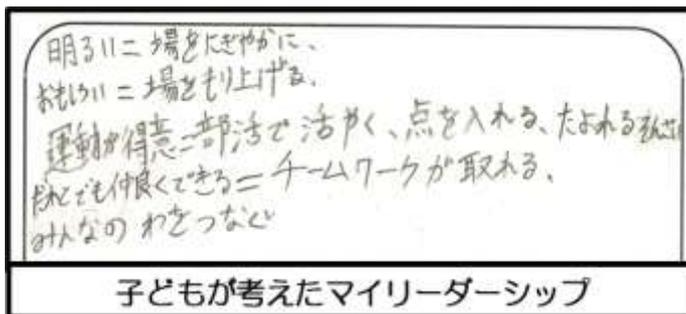
6 研究の成果と課題

<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前や導入で教材に対する考えをもつことで、登場人物と自分を比べたり、関わらせて考えたりすることができた。また、子どもの疑問や考えを授業の中で生かすことができた。 ○ ミニ道徳を行うことで、実生活により近い場面で役割を果たすことについて、自分の考えをもつことができた。 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業の中で、教材だけでなく実生活について振り返ることは大切だが、効果的なタイミングや方法を考えていく必要がある。 →子どもの思考の流れを意識し、授業展開を考えていく。 ● ミニ道徳で提示した場面以外に考えが広がらなかった子どももいた。 →様々な条件や状況を想定できるような声掛けを行うようにする。
--	---

7 研究のまとめ

実践前と比べると、自分の思いをもって役割を果たす姿が増えた。2学期を振り返ったキャリアパスポートには、「縦割り集会では、みんなに声を掛けたり、遊びを考えたり、いろいろとチャレンジできた」という記述も見られた。

また、実践後、ミニ道徳をより生き方につなげるために、学活の時間に1学期に行った自他のよさを捉える活動を再び行った。子どもたちは、「よいところが増えた」や「この自分のよさは変わっていない」と自分のよさを捉え直していた。授業のまとめに自分のよさを生かしたリーダーシップ（＝マイリーダーシップ）を考える活動を行うと、部活動や委員会、縦割り集会など、自分のよさを生かせる場を一人ひとり考えることができた。これは、道徳とキャリア教育を結び付け、自分の役割について考えたことで、より自分の役割を果たそうとする意欲を高めたり、自信をもつことにつながったりしたからだと考えられる。今後も、道徳とキャリア教育をつなぎ、主体的に自分の役割を果たそうとする子どもを育てることが出来る授業づくりを目指していきたい。



子どもが考えたマイリーダーシップ